

住民主体のまちづくり

No.49 2018. 1

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 車尾地区防災フェア

去る11月19日（日）午前8時半から、公民館及び小学校グラウンドで防災意識を高める取り組みとして防災フェアを行いました。米子市消防団、地域包括支援センター、米子医療センター附属看護学校生の協力も得て、大規模なものになりました。前半は各自治会で、「震度6弱の地震が発生した」という無線放送を聞いて、住民の安否確認を自治会役員が行い、集合場所に避難した者を集めて公民館まで避難移動した。また避難の難しい者を確認して車椅子で公民館まで移動する取り組みは、思った以上に時間がかかることが分かった。

後半は公民館で、米子市女性消防団による寸劇とAED講習、民生委員の方々によるクラフト教室や手作り防災用品の教室などたくさんの体験コーナーを準備して無関心層の参加を呼び掛けました。安否確認の本部への報告は、最後が40分かかった自治会があり今後の取組に活かすことになる。参加者からは「放送を聞いての行動は、訓練とはいえ緊張しました。」「寸劇を見て、いざという行動がとれるためには訓練が必要です。」などの声が上がっていた。



■ 特殊詐欺被害を防ぐ

地域モデル検証事業（その10）

これまでの調査結果をまとめると ②

オレオレ詐欺・架空請求詐欺・還付金等詐欺について認知度は高いが、その背景にはそれだけテレビ、新聞等で取り上げられる機会、つまりは被害発生が多いということが指摘できる。因みに、「特殊詐欺内容及び手口についての情報入手ルー

ト」を訊いているが、その回答も「テレビ・ラジオ・新聞」が93.9%と圧倒的です。

融資保証金詐欺と未公開株勧誘詐欺とギャンブル必勝法情報提供詐欺の認知度は既述の通りそれほど高くなく、また、認知度の高いオレオレ・架空請求・還付金の3つの詐欺では男女間の差はほとんどみられないのに対して、融資保証金・未公開株・ギャンブルの3つの詐欺はいずれも男性が女性よりも各々6（融資）、9（未公開株）、14ポイント（ギャンブル）高くなっている。さらに、上位3項目では年代が上がるにつれて「名前も手口も知っている」の認知度合が減少する傾向が比較的明確となっているが、下位3項目ではそうした傾向が明確とはなっていない。

還付金等詐欺は税務署や社会保険庁、市町村の職員のふりをして税金の還付等を騙るもので、公的機関が絡む点で他の詐欺とは趣が異なる。この詐欺については、予備調査の問2、問3および問4と本調査の問4とで深く、細かく訊いているが、性別・年代等に関わらずいずれも「（電話で公的機関から還付が知らされることは）ない」、「（ATMに行くよう指示されても）行かない」あるいは「誰か（家族・警察等）に相談する」等、適確な対応を心がけていることが非常に高い状況となっている。

予備調査では、問5（有料サイトからの支払催促メール）、問6（もうけ話の誘い）、問7（未公開株勧誘）、問8（未公開株の上場後のもうけ話）について訊いているが、これらについても「無視する」、「うまい話はない」あるいは「誰か（家族・警察等）に相談する」等の適確な対応が非常に高く示されている。

ただし、問8については未公開株購入後の上場を想定した質問となっているためもあってか、「もうかるとは思わない」は概ね7割程度にとどまった。

自分たちのまちは自分たちで（ つくる つなぐ つづける ）